

江戸時代の吉田キャンパス

歴史史料と出土資料

絵図を信じると、18世紀前半の吉田村、特に現在の吉田キャンパス敷地は、広大な水田が広がり、東側低丘陵上にのみ集落が形成されていたことになります。この状況は、発掘調査によっても裏付けられています。

当館が実施したキャンパス内での発掘調査で、明確に江戸時代の集落が確認されたのは大学本部事務局棟が立地する低丘陵上と、その南方に位置するメディア基盤センター棟敷地に限られます。これは地下上申絵図吉田村に描かれた「坂本村」に該当すると考えられます。絵図に「御蔵」と記された白壁の土蔵や家屋などが建ち並ぶ集落域が現在の大学本部事務棟周辺、そして道向かいの家屋がまばらに並ぶ集落域がメディア基盤センター棟周辺と推定されます。

キャンパスの他の地域では、未だ水田（耕作）跡しか発見されていないことから、地下上申絵図が当時の景観を極めて正確に描いていたことがわかります。ここでは、江戸時代の集落跡が確認されたメディア基盤センター棟敷地の出土品と、水田耕作に伴う用水路が検出された第2屋内運動場敷地の出土品をご紹介します。

メディア基盤センター棟の発掘調査

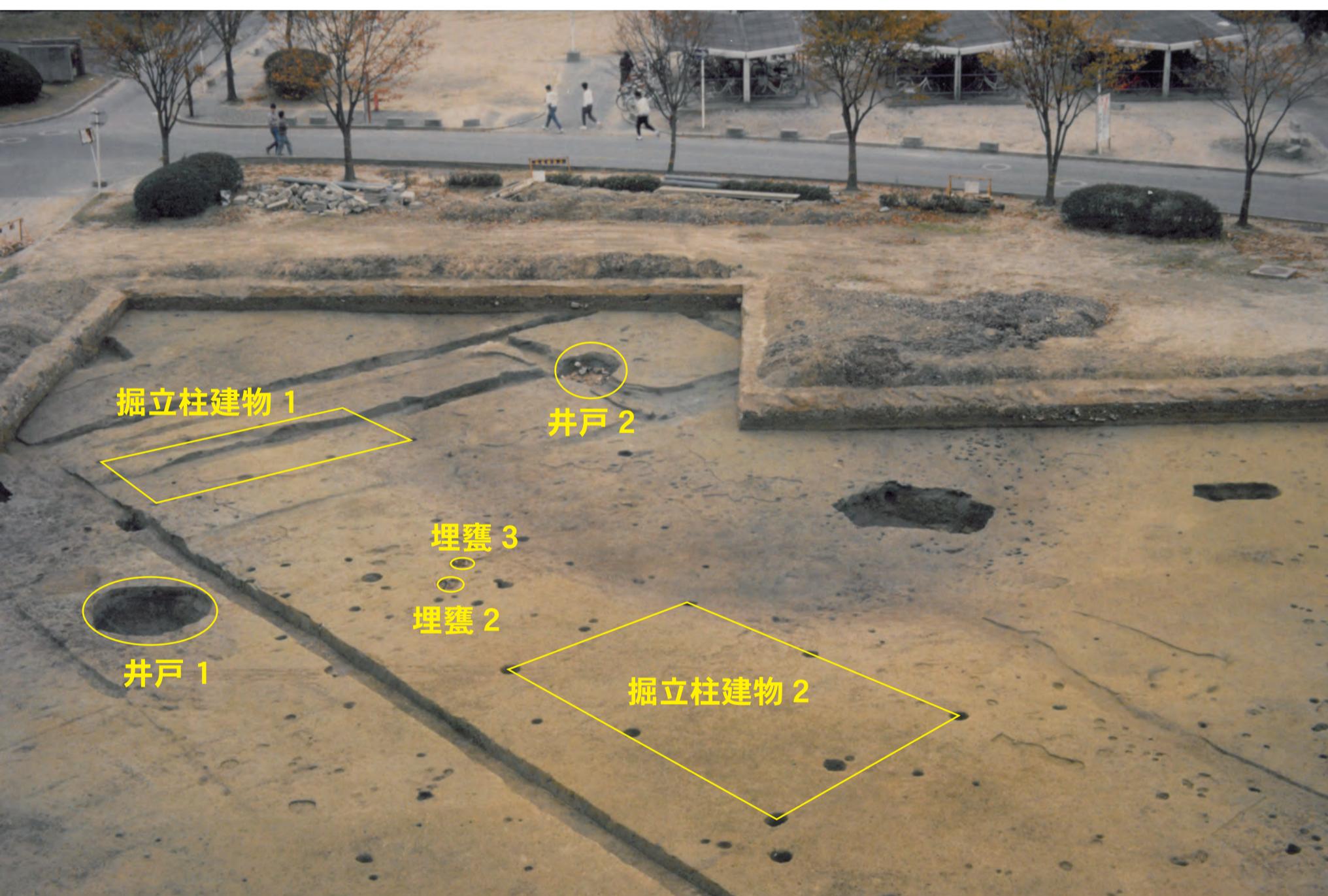
- 調査面積 約 900 m²
- 調査期間 昭和 62 年 9 月 14 日～12 月 12 日
- 確認された遺構 繩文時代：落し穴・溝・河川跡
弥生時代：竪穴住居跡
古墳時代：河川跡
江戸時代：掘立柱建物跡・井戸・埋甕・溝

この調査区では、江戸時代に所属する遺構として、掘立柱建物跡 2 棟、井戸 2 基、埋甕 3 基などが確認されました。埋甕は便器や肥溜めの用途、水や調味料、穀物・保存食などを貯蔵する用途に用いられたものです。

第2屋内運動場の発掘調査

- 調査面積 726 m²
- 調査期間 平成 6 年 7 月 16 日～10 月 18 日
- 確認された遺構 繩文時代：貯蔵穴
弥生時代～中世：大溝・溝
江戸時代：用水路

用水路は調査区南西部端で確認されました。幅 2.5 ～ 4m、深さ 1.1m、検出長 11.5m を測ります。埋土からは 18 世紀後半から 19 世紀を中心とする陶磁器類が多量に出土しています。



メディア基盤センター棟敷地発掘調査状況
(北から)



第2屋内運動場敷地発掘調査状況
(北東から)